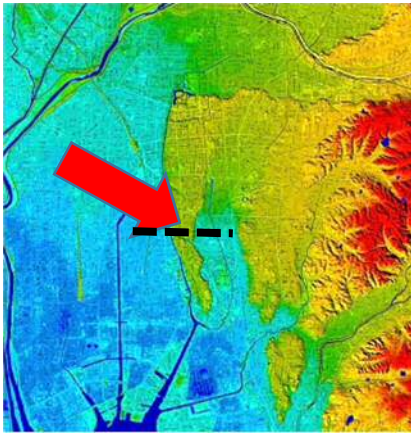


「象のハナ」を探して

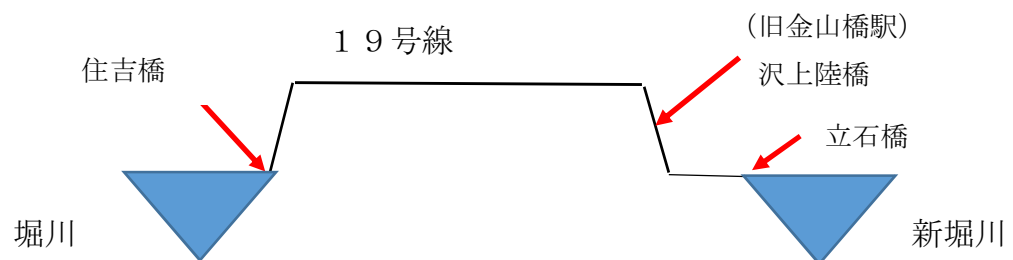
熱田区勤務になってすぐ、「熱田区には『象のハナ』があるんだよ」と聴きました。

「象のハナ」とは、名古屋の市街地を南北に貫く「熱田台地」について、地図で見ると象の長い鼻に見えることからついた愛称です。



地図は、国土地理院WEBサイト
「デジタル標高地形図」名古屋
【技術資料D1 - No. 462】を加工

地図では、青から赤に向かって標高が高くなります。矢印の先が金山駅です。今回は、担当者が仕事でお世話になりがちな高蔵学区について、八熊通り（黒の点線）で東西の断面にすると、次のようなイメージになります。



熱田台地の上には熱田神宮や高座結御子神社、断夫山古墳を始めとする多くの史跡があり、古来繁栄していたことはご存じのとおりです。

今回は、高蔵学区を歩いて観察しようと思うのですが、その際「象のハナ」を横断し、台地であることの証拠を探したいと思います。

本日のコースは、最終ページの地図のとおりです。

今回は八熊通りで学区を横断したいと思いますので、スタートは学区の西端、八熊通と堀川とが交わる住吉橋にしたいと思います。

堀川は、名古屋城築城に合わせて開削された人工河川で、物流手段が整備されていなかった時期には、物流の大動脈として、町の発展を支えました。

住吉橋のたもとには、1734年創建の、摂津からお招きした水運守護の神を祀る住吉神社があります。これまで、堀川を行き来する船を見守ってきたのでしょうか。



神社の敷地を堀川の側からみると、切り立った石垣になっています。また、神社の裏手には、堀川沿いの道に降りる結構急な坂道があったりもします。

ここが熱田台地の「西端」であることが、お分かりいただけます。



さて、八熊通を東に向かうと、結構な登り坂です。

ただ、坂を上り切ってＪＲ東海道線・名鉄線を沢上陸橋で越えると地形が分かり難いので、この際、同じ高蔵学区内の金山駅南口に寄り道します。

金山駅は名古屋駅と熱田神宮やセントレアなどを結ぶ拠点であり、南口広場には週末に多くの出店があるなど、賑わいを見せています。



少しでも多くのお客さんが駅の構外へ足を運んで欲しいと願いながら…

金山橋の近くで大津通を越え、ＪＲ中央線と名鉄線の間急な坂道を下ります。ここが熱田台地の東端になります。

かつて、この坂の途中に、名古屋鉄道の旧「金山橋駅」があったそうです。

現在の金山「総合」駅を整備する際、この金山橋駅を地下鉄金山駅の近くに移転したとか。

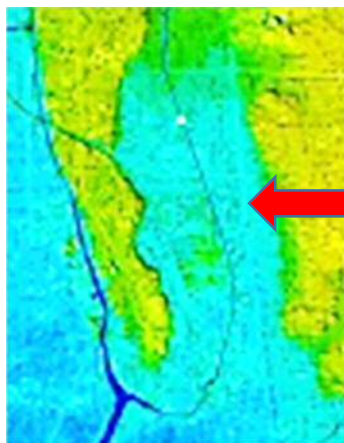
私は金山総合駅ができてからの名古屋しか知りませんが、その昔、毎朝、金山橋駅から地下鉄金山駅を目指した人の波があったそうです。



高蔵学区は新堀川の岸边まで続きますので、八熊通りに出て、東に進みます。新堀川に架かる立石橋まで来たら川沿いを川下へ。

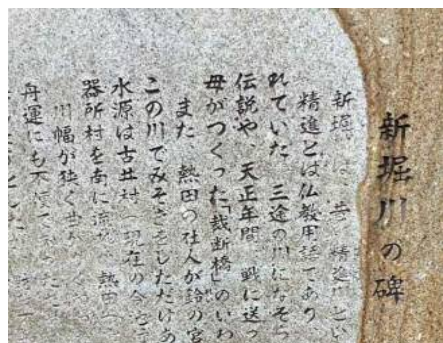
この辺り、古くは熱田台地と昭和台地との間で水を集める「精進川」が流れておりました。その精進川がたびたび氾濫しましたので、明治43年に運河として改修したのが、下の地図の矢印の先にある新堀川です。

二つの高台の間を流れることが、よくお分かりになるかと思います。



地図は、国土地理院WEBサイト
「デジタル標高地形図」名古屋
【技術資料D1 - No. 462】を加工

左岸（瑞穂区側）になりますが、日の出橋の近くに新堀川の由来を記した碑があり、過去の氾濫や運河整備について記されています。



本日のお散歩は、ここで終了です。私は「象のハナ」の地形の具体的なイメージがつかめたのですが、皆さんはいかがでしょう。

なお、本日のコースは、次の頁のとおりです。

